

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 1日現在

機関番号：13601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720160

研究課題名（和文） 変体仮名の語境界表示機能に関する実証的研究

研究課題名（英文） Corroborative research on distinctive function of Hentai-gana

研究代表者

白井純（SHIRAI JUN）

信州大学・人文学部・准教授

研究者番号：20312324

研究成果の概要（和文）：変体仮名には、語のなかで特定の位置に特定の変体仮名が用いられることで語の境界を明示する機能的役割があるが、本研究は仮名表記の伝統を持たないキリシタン版の原語の仮名表記に注目し、その機能的運用が当初は組織的でない事、経験を蓄積することで次第に組織化されていることに注目し、変体仮名の機能的運用が語を表記するという経験の蓄積によるものであり、独立した表記上の規則ではないことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research proved Hentai-gana writing system had a distinctive function. This function was not conscious method but experiential result. If it was conscious method, original foreign words in the Jesuit Mission Press in Japan would write definite style, but in fact, there were no definite writing style in the early books, but in the latter term, it had a conscious method. In conclusion, Hentai-gana writing system derive from experiential accumulation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：キリシタン版、ひですの経、変体仮名、仮名用字法、語境界

1. 研究開始当初の背景

本研究は、中世日本語の表記環境における変体仮名を対象として、キリシタン文献国字本を中心に連綿表記（連綿活字）と文字遣との関係、仮名が語頭に立つ確率と文字遣との関係に注目して考察し、語境界表示の必然性を実証的に再検討することを目的とする。

例えば、仮名「し」では字体[志]と[之]が頻用され、[志]は語頭専用であるという。また仮名「か」の字体[加]と[可]にも同様の関係が見いだせる。しかし、このことによって[志][加]に語頭表示機能があり、意識的に運用され可読性に貢献したとみることはできない。字体の選択には機能的な問題以外にも

様々な要因が働いており、この例では、より字画の複雑な字体が語頭に置かれ易いという筆記上の理由も無視できないからである。書道的な美意識や変字法が関係することは言うまでもなく、これらと機能的運用の区別が方法論上の課題となる。

2. 研究の目的

本研究は、中世日本語の表記環境における変体仮名を対象として、キリシタン文献国字本を中心に連綿表記（連綿活字）と仮名文字遣との関係、それぞれの仮名が語頭に立つ確率と仮名文字遣との関係に注目して考察し、語境界表示の必然性を実証的に再検討することを目的とする。

語境界表示という機能的な仮名文字遣を考える際には、個別の文献における個別の事例を説明することの多かった従来の研究の問題点を改め、共通する特徴をまとめて統一的な原理として考察する必要がある。その手段として、外国人による日本語表記の理解と運用という過程を経て成立したキリシタン文献を対象として、機能的な仮名文字遣による語境界表示の実態を明らかにすることが本研究の目的である。

(1) キリシタン文献前期国字本（どちりいなきりしたん、ばうちずもの授けやう）の文字遣の悉皆調査

(2) キリシタン文献後期国字本（さるぼとるむんち、ぎやどぺかどる、おらしよの翻訳、どちりなきりしたん、太平記抜書）の文字遣の悉皆調査

(3) 日本側文献についての調査報告・考察のまとめ

(4) キリシタン文献と日本側文献の比較による機能的な文字遣の考察

3. 研究の方法

本研究では、中世日本語の文字遣を考察す

るため、キリシタン文献国字本を対象として以下の調査を実施するが、調査に際しては文字遣だけでなく、活字印刷技法、漢字字体など将来の研究にも応用のできる画像データベースの作成を行いたい。

(1) キリシタン文献国字本（影印）の本文をスキャニングして電子化し、文字（活字）毎に切り出して、申請者によって既に作成済の本文索引にリンクさせて文字画像データベースを作成する。

(2) 各文献のそれぞれの仮名について異体字の存在を確認し、文脈と使用位置を視認のうえ記入した一覧表を電子データとして作成する。

(3) 文献内部、および文献相互、さらには性格を異にする前期国字本と後期国字本を比較し、キリシタン文献国字本の文字遣の実態を実証的に検討する。

(4) 日本側文献についての過去の研究を総覧し、共通する特徴、共通しない特徴を把握したうえでキリシタン文献国字本の状況と比較し、中世日本語の文字遣にみられるとされる語境界表示機能について考察する。

4. 研究成果

本研究の目的は、キリシタン文献国字本の文字遣の調査に基づき、文字遣がもつとされる語境界表示機能を実証的に検討して機能的な文字遣の原理を考察することである。そのため、語境界表示という機能的な文字遣を扱う際に個別の文献における個別の事例を説明することの多かった従来の研究の問題点を改め、共通する特徴をまとめて統一的な原理として説明することを目指した。

その手段としてキリシタン文献を対象とし、語境界表示に関係した連綿表記（連綿活字）内の文字遣、それぞれの仮名が語頭に立つ確率と文字遣の関係、キリシタン版に特有

な原語の仮名表記に現れた文字遣、殆ど同一の本文をもつ活字本と写本の比較、という従来の研究には無い分析的な視点を取り入れ、以下の結論を得た。

(1) 文字遣の殆どは相補的分布ではなく汎用の常用字体と限定字体(例えば語頭限定)の関係をとる。

(2) 機能的な文字遣は変体仮名の排他的利用に基づくのではなく選択の可能性を持つため常に顕在化するとは限らない。

(3) 文字遣のすべてが機能的な理由によって選択されたとみるのは適切でない。

(4) 活字本の文字遣の多様性が筆写本で固定的な文字遣に収束したのは書写の習慣に基づく。

(5) キリシタン版の原語の文字遣の多様性は書写の習慣が働きにくい特殊な条件だった為であるが、キリシタン版における経験の蓄積によって文字遣に一定の方向性が新たに獲得されている。

(6) 原本調査の結果、新出キリシタン版「ひですの経」の文字遣は原則として他のキリシタン版に一致する。

なお、研究の期間中に、研究対象に含めるべき新たなキリシタン版国字本「ひですの経」がアメリカのハーバード大学ホートン図書館で発見され、発見者の折井善果氏、キリシタン版研究の第一人者の豊島正之氏と共に原本調査を行うことができた。当初の計画には無かったが、新資料の発見という望外の幸運を受けて、その成果をいち早く本研究に盛り込めたことは、本研究にとっても、また仮名文字遣研究の今後の研究にとっても大きな収穫であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①白井純, 「キリシタン版の原語にみる仮名用字法の意識」, 『人文科学論集(信州大学)』, 46巻, pp.21-30, 2012, 査読有

②白井純, 「キリシタン版国字本としての『ひですの経』」, 折井善果『ひですの経 キリシタン研究第48輯』, pp.198-225, 2011, 査読無

③白井純, 「キリシタン版前期国字版本の仮名用字法について」, 『国語国文研究』, 137巻, pp.L1-L19, 2010, 査読有

[学会発表] (計8件)

①白井純・豊島正之, "Creation of metallic movable types of Japanese KANJI/KANA by the Jesuits", 7th International Conference Missionary Linguistics, 2012.3.1, Bremen

②白井純, 「「ひですの経」とキリシタンの言葉」, 『ひですの経』影印・翻刻刊行記念講演会(招待講演), 2012.1.22, 東京

③白井純, 「「落葉集小玉篇」の部首配属からみたキリシタン版の字体認識」, 漢字字体規範国際シンポジウム「字体規範と異体の歴史」, 2011.12.17, 東京

④白井純, 「松本藩版「兵要録」——活字本から整版へ——」, 第67回「書物・出版と社会変容」研究会, 2011.10.1, 松本

⑤白井純, 「キリシタンの日本語学習——落葉集と節用集——」, 第10回世界日語教育研究大会, 2011.8.21, 天津

⑥白井純, 「「ひですの経」断簡の意義」, 宣教に伴う言語学 第二期プロジェクト研究会, 2011.5.31, 東京

⑦白井純, 「キリシタン版後期活字の材質について」, 宣教に伴う言語学 第二期プロジェクト研究会, 2010.10.3, 東京

白井純, 「「ひですの経」の仮名活字について」,

宣教に伴う言語学 第二期プロジェクト研究会, 2009.11.16

〔図書〕(計1件)

①折井善果, 白井純, 豊島正之, ひですの経
ハーバード大学ホートン図書館所蔵, 八木書店 pp.1-386

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白井 純 (SHIRAI JUN)

信州大学・人文学部・准教授

研究者番号: 20312324